

臨床スポーツ医学会からの提言

理事長 福林 徹

本年施行されたスポーツ基本法の中でもスポーツ選手の健康と安全に関する条項、及びドーピング防止活動に関する条項につき提言いたします。

第一章第二条第4項スポーツを行う者の心身の健康の保持増進、安全の確保

第三章第十四条（スポーツ事故の防止等）スポーツ事故、その他スポーツによって生じる外傷・障害等の防止及びこれらの軽減に資するため、指導者等の研修、スポーツ施設の整備、スポーツにおける心身の健康の保持増進、及び安全の確保する知識の普及、その他の必要な措置を講ずること

第三章第二十九条（ドーピング防止活動の推進）ドーピング防止に関する教育及び啓発

スポーツ事故（外傷・障害）に対して従来のスポーツ振興基本計画（2001~2010）の中で最も欠落している部分は、スポーツ事故に対しての予防の発想が見られないとことです。

提言 I：スポーツ事故（外傷・障害）を予防するための有用な予防法の確立

欧米（IOC、FIFA）の医事の現状：スポーツ事故を減少させるためには、いかに事故を予防すべきか（できるか）という発想に基づき、injury surveillance studyによる外傷発生の頻度と重症度の検討、発症メカニズム（原因）の詳細な検討、その予防策の提示、予防策を実施しての効果判定が行われており、より効率的な手法でのスポーツ事故の軽減化が行われつつある。しかるに日本のスポーツ事故（外傷）予防への対応はこの点では10年以上遅れている。

1. 信頼出来る injury surveillance system の構築が必要

日本スポーツ振興センター：学校の管理下の災害（参考資料1～6）

スポーツ安全協会：スポーツ安全保険の概要

IOC、FIFA等に準じた国際基準での外傷登録システムの運用

サッカーJリーグ、ラグビートップリーグ、バスケット（WJBL）、アメフト
国民体育大会、高校総体、中学総体での検討

2. 発症メカニズムの検討

優先検討事項：

- 1) ラグビー、アメフトにおける頭頸部重症外傷（参考資料4）
- 2) 武道必修化に伴い中学生柔道での頭頸部を中心とした外傷（参考資料5）
- 3) 女子バスケットボールにおける膝前十字靭帯損傷（参考資料6）

3. 予防法の確立と実施

グラウンド等の施設の充実に加え有効な予防プログラムの現場での実施。
サッカー（国際的には FIFA11+、女子バスケ、スキー、テニス）で作成

提言Ⅱ スポーツ現場での医務体制（特に救急体制）の確立

重症頭頸部外傷や、突然死、熱中症、さらには四肢の外傷へのスポーツ現場での対応を充実させるためスポーツ現場での施設、マンパワーを充実させる必要がある。また総合型地域スポーツクラブでは運動療法を含めたスポーツ障害の相談が受けられるようにすることが望ましい。

1. スポーツ施設での AED 設置の義務化と職員の救命救急講習会の受講
2. スポーツ大会での救護マニュアルの作成、最低限の医療備品の整理。総合大会（国体、高校総体、中学体育大会等）での医師、トレーナーの常駐
3. 過酷な環境下でのスポーツの祭典での医師の常駐（熱中症の予防）
4. 総合型地域スポーツクラブでトレーニング相談（スポーツ科学）と平行してスポーツ医学的な相談が受けられるようにする事が望ましい。そのためにはアスレティックトレーナーやスポーツドクターの派遣が望まれる。特にアスレティックトレーナーは将来的には総合型地域スポーツクラブのスタッフの一員として採用されるのが望ましい。

提言Ⅲ 部活動やスポーツクラブに所属する者のメディカルチェックの義務化

サッカー松田選手の突然死は記憶に新しい所であるが、平成 22 年度の学校管理下の死亡例では突然死が 39 例報告され、そのうち 34 例は心臓・大血管系が原因である。また中高年では運動中の心筋梗塞も多く報告されている。

1. プロスポーツやオリンピック選手（候補を含む）、ジュニアの有望選手に対して少なくとも年 1 回の JISS で行われるような心エコーを含むメディカルチェックの受診を義務化する。
2. 中高年でのスポーツ参加においては安静時心電図を含む基本的メディカルチェックを導入する（臨床スポーツ医学会勧告）。この結果により追加検査さらにはスポーツ参加の可否を決定する。中高年へのメディカルチェックは定期的に行われるべきである
3. 中学 1 年生での心臓検診（心電図）は義務づけられているが、大学生への心電図検査は義務化されていない。運動部に在籍する者については血液検査を含む心電図検査を定期的に行う必要があり、これを義務化すべきである。

提言Ⅳ スポーツでの慢性障害（投球障害、ランニング障害等）への提言

スポーツ障害は放置すると致命的な結果を招くことも多い。特に発育期の野球肘をはじめとする投球障害や、長距離ランナーのランニング障害はその代表的事例である。障害の多くは練習時間と、選手のスキル（フォーム）によることが多い。

1. 発育期の小・中学性の野球肘障害を防ぐため、投球回数や練習時間の制限を設ける。（臨床スポーツ医学会提言を参照）
2. スポーツの盛んな学校を対象に校医として整形外科医を入れるとともに養護教員としてアスレティックトレーナーを採用する。
3. ジュニアの指導者に対してのスポーツ医学教育を重視し、障害発生防止の方策を指導する。
4. 中高年のスポーツ障害に対しては所属クラブやサークルでのアスレティックトレーナーやスポーツドクターの相談ができるように配慮する。（前述の総合型地域スポーツクラブでのスポーツ障害相談）

提言Ⅴ スポーツ医学関係者の地位と資質の向上

スポーツ分野ではいまだに自称トレーナーや自称スポーツドクターがはびこり、EBMを無視した施術等が行われていることが多い。

1. スポーツ医科学に基づいた良質なスポーツドクター、アスレティックトレーナーの育成と地位の向上（日本体育協会公認スポーツドクター、アスレティックトレーナー）を図る
2. 日本体育協会公認スポーツドクターの認定医、専門医制の確立が必要
3. スポーツ医科学研究の活性化（医学、栄養 etc） とスポーツ現場への応用が必要

提言Ⅵ ドーピング防止教育の推進

ドーピングコントロールは日本でもトップ選手を中心に頻回に行われており、違反例も諸外国に比較すると格段に低い。しかし真のアスリートを育てる意味でのドーピング防止教育は、その広がりがまだ限定的である。特に選手をはじめ、トレーナー、ドクターがこの問題に無知である現状がある。

1. ドクター、トレーナーに対してのドーピング防止教育の徹底を図る。
2. 選手、指導者への真のアスリートの意義とドーピング防止教育の徹底を図る。
3. 製薬業界を巻き込んだ形でのドーピング防止運動を行う。

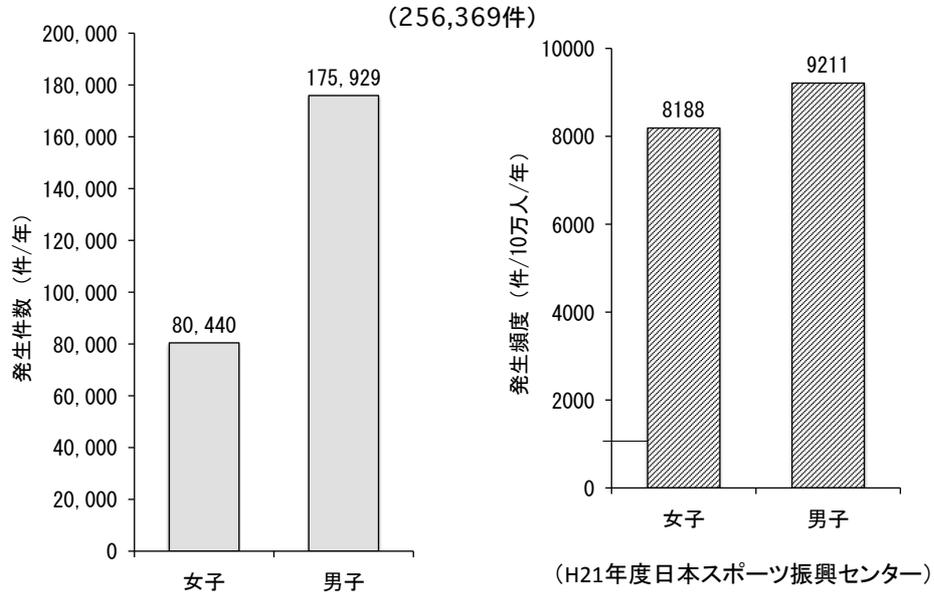
提言Ⅶ 障害者に対してのスポーツの充実

障害者は通常身体を動かす機会が少なく、またその楽しさを知らない事が多いが、健康者と同様にスポーツを楽しむ権利を有する。

1. 特別支援学校におけるスポーツの充実（体育＋レクリエーション）
2. 体育教師の資格習得に障害者スポーツを必修科目として入れる
3. 障害者アスリートのためのトレーニングセンター、医科学センターの設置

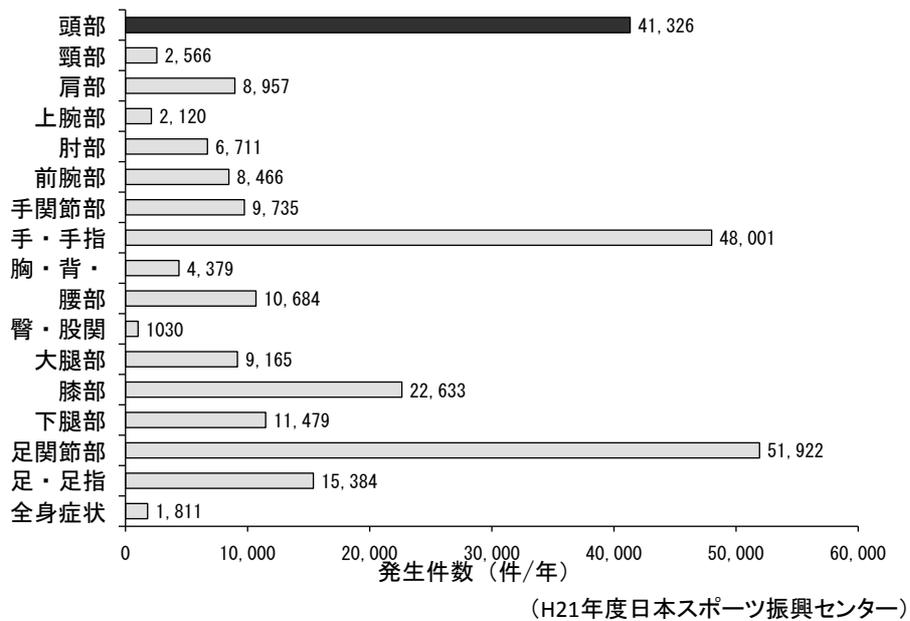
スポーツ医学は整形外科、内科、脳神経外科、小児科、産婦人科、リハビリテーション科等の専門分野に分かれており、本日述べた以外にも数々のスポーツに関する提言をその専門分野から出しております。是非、我々の提言を新スポーツ基本計画の策定に当たり採用していただければ幸いです。

日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 資料1
 中学・高校学校管理下での外傷発生件数と発生頻度



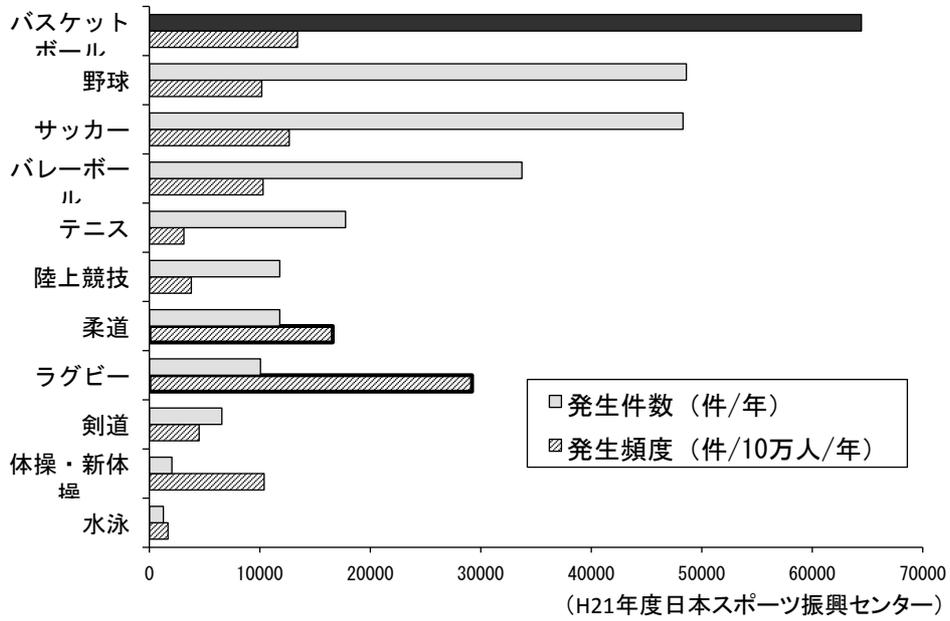
外傷発生件数(部位別)

資料2



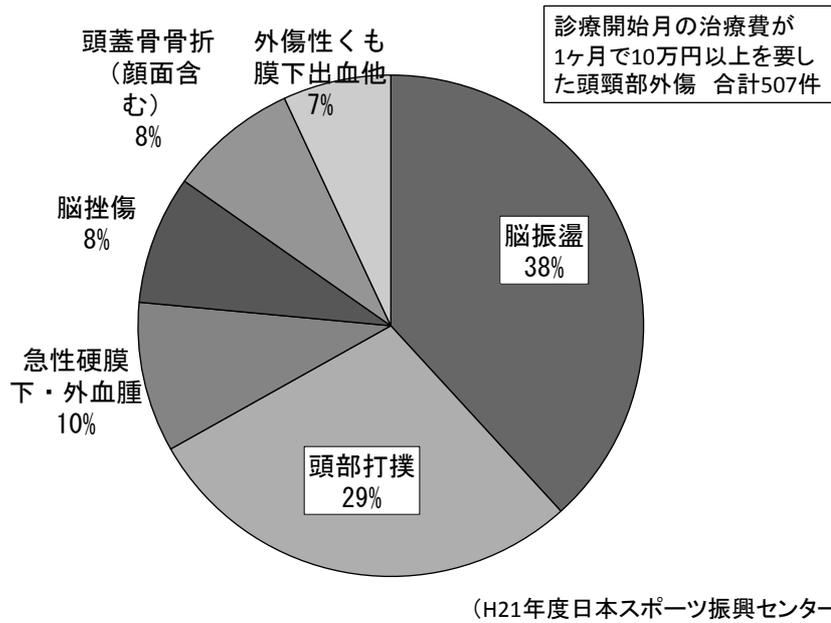
外傷発生件数と発生頻度(種目別)

資料3



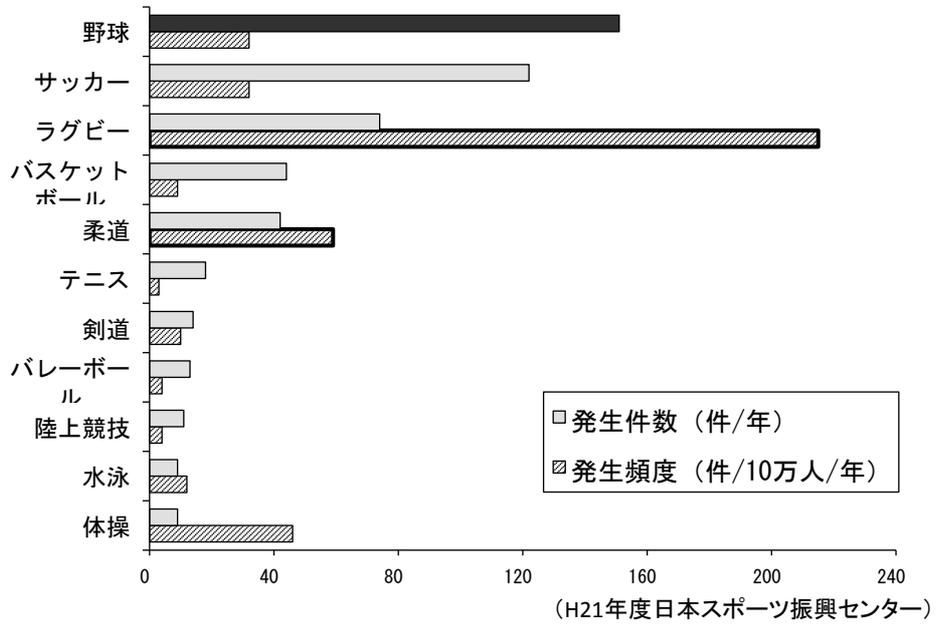
434件の頭部外傷の内容

資料4



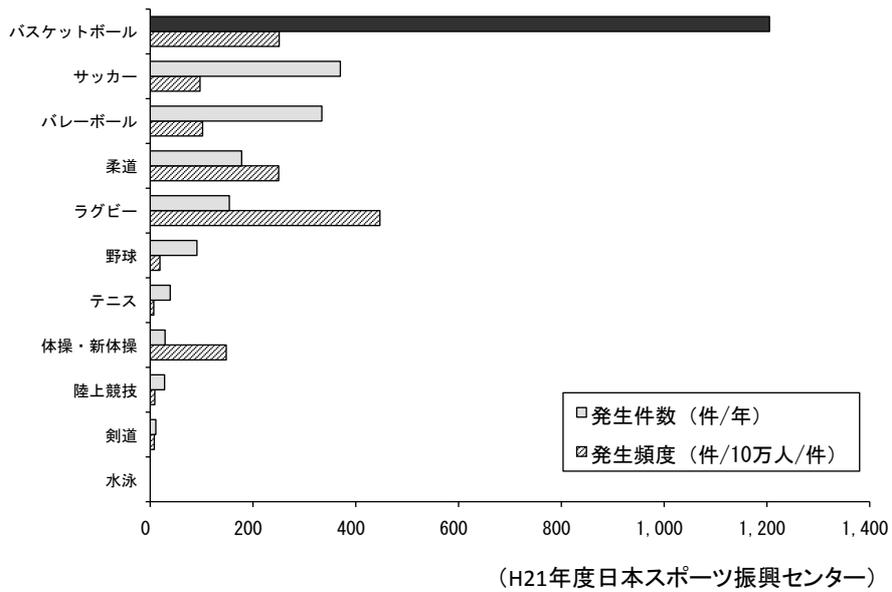
資料5

重症頭頸部外傷の発生件数と発生頻度(種目別)



資料6

膝前十字靭帯損傷の発生件数と発生頻度(2439件)



日本臨床スポーツ医学会の構成

事務局：〒104-8172 東京都中央区築地 1-13-1
(株) アサツーディ・ケイ メディカル事業推進室内
理事長 福林 徹

設立 1990年10月

会員数：正会員（医師）2377名 准会員（PT.トレーナー等）996名 合計3373名
本会は日体協公認スポーツドクター、アスレティックトレーナー中心に構成されている。
スポーツドクターは整形外科医をはじめとして内科、脳神経外科、小児科、リハビリテーション科、産婦人科等多岐にわたっている。本会会員・准会員は日本体育協会、JOC、JISS、JADA などとの結びつきが深い、特に日本体育協会とは日本体育協会公認スポーツドクター部会、アスレティックトレーナー部会に委員として深く関わっている。また本会会員・准会員の多くの者はオリンピックを始め、国内外の主要スポーツ大会のチームドクター、トレーナーとしてスポーツ現場で活躍している。

理事一覧 (50音順)

スポーツ（整形）	福林 徹	早稲田大学
小児科	浅井 利夫	東京女子医科大学東医療センター
スポーツ（整形）	大久保 衛	びわこ成蹊スポーツ大学
スポーツ（内科）	川原 貴	国立スポーツ科学センター
整形外科	黒坂 昌弘	神戸大学
スポーツ（内科）	河野 一郎	日本スポーツ振興センター
スポーツ（内科）	坂本 静男	早稲田大学
脳外科	谷 諭	東京慈恵会医科大学
整形外科	帖佐 悦男	宮崎大学
整形外科	藤 哲	弘前大学
リハビリ	飛松 好子	国立障害者リハビリテーションセンター
小児科	馬場 礼三	あいち小児保健医療総合センター
内科	藤本 繁夫	大阪市立大学
整形外科	増島 篤	東芝病院
整形外科	松本 秀男	慶應義塾大学医学部
整形外科	水田 博志	熊本大学大学院
内科	武者 春樹	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
整形外科	宗田 大	東京医科歯科大学
スポーツ（婦人科）	目崎 登	帝京平成大学
歯科	安井 利一	明海大学
内科	山澤 文裕	丸紅健康開発センター
整形外科	吉矢 晋一	兵庫医科大学
スポーツ（整形）	渡會 公治	帝京平成大学

監事一覧 (50音順)

整形外科	斎藤 明義	駿河台日本大学病院
リハビリ	牧田 茂	埼玉医科大学国際医療センター

